



企画部広報課

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目 19 番 1 号
TEL:092-871-6631 FAX:092-864-9415
http://www.fukuoka-u.ac.jp/

FUKUOKA UNIVERSITY

PRESS RELEASE

2013 年 5 月 28 日 (火) No.13

※プレスリリースは福岡大学公式ホームページ「マスコミ関係の皆さま」でも配信しています
送付枚数 2 枚 (本書含む)

報道関係者 各位

日本地質学会西日本支部第 164 回例会およびシンポジウム

「長岡信治：海から山，火山でのフィールドワーク」を開催

福岡大学国際火山噴火史情報研究所と日本地質学会西日本支部は、2011 年 7 月に急逝された元長崎大学長岡信治教授の遺稿集の刊行を記念し、公開シンポジウムを開催します。

長岡教授は、東京都立大学の大学院生時代から南九州のテフロクロノロジーを専門とし、幅広い分野の研究に従事されていました。海外でもエチオピア、マダガスカル、タイ、韓国などでフィールドワークを行い、考古学や人類学の知見を地質学・自然地理学へ応用するなど、その研究領域自体が一つの学問分野とも言われています。現在、火山噴火史情報研究所で取り組んでいる「噴火史データベース」も長岡教授が亡くなる直前まで意欲を示されていたものです。

今回のシンポジウムでは、長岡教授との共同研究者が遺された資料などをもとに、それぞれの研究を紹介するとともに、今後の研究者がどう受け継いでいくかについても議論を深めていきます。

ついでに、長岡教授を偲び、これからの地質学を考える本シンポジウムを広く市民の皆さまにご紹介いただきたく告知と当日の取材をお願いします。

記

期 日	6 月 8 日 (土)、9 日 (日) (スケジュールは別紙のとおり)
会 場	雲仙岳災害記念館 (がまだすドーム) セミナー室 (http://www.udmh.or.jp/info/01index.html)
主 催	日本地質学会西日本支部、福岡大学国際火山噴火史情報研究所
共 催	長崎県地学会
参加費	1,000 円 (一般) / 500 円 (学生)
申し込み	事前の申し込みは不要

【お申し込み先・お問い合わせ先】

福岡大学 シンポジウム実行委員会 (担当：奥野)
電話：092-871-6631 (代) (内線：6289)
メール：ehai1^{イチ}@fukuoka-u.ac.jp

6月8日(土)

(10:00～ 一般講演1)

- 12:40 小林哲夫 (鹿児島大) : 支部長あいさつ
- 12:50 奥野 充 (福岡大) : シンポジウムの趣旨説明
- 13:00 今泉俊文 (東北大) : 佐賀平野での活断層研究
- 13:30 宮内崇裕 (千葉大) : 小笠原硫黄島の研究
- 14:00 西山賢一 (徳島大) : 宮崎平野の段丘とテフラ
- 14:30 井上 弦 (九州大) : 中・南九州でのテフラと土壌
(休憩)
- 15:30 柵山徹也 (海洋研究開発機構) : 五島や韓国などでのフィールドワーク
- 16:00 鈴木毅彦 (首都大) : 長岡さんのテフラ研究
- 16:30 森脇 広 (鹿児島大) : 南九州の沖積やATなどのトピック
- 17:00 松島 義章 (神奈川県博) 南九州における海成沖積層の貝化石
- 17:30 山本信雄 (元・上高地ビジターセンター) : 長岡信治と上高地
(討論1)

6月9日(日)

- 9:30 小池裕子 (九州大) : マダガスカルのエピオルニス調査
- 10:00 加藤茂弘 (兵庫県博) : エチオピアのテフラ研究
- 10:30 仲谷英夫 (鹿児島大) : 長岡さんとのフィールドワーク
- 11:00 菅沼悠介 (国立極地研) : タイ調査でのエピソード
- 11:30 前田保夫 (元・山形大) :
長岡さんと進めていた「西九州の hidroアイソスタシー」について
- 12:00 鳥井真之 (熊本大)・西園幸久・稲倉寛仁 (西日本技術開発)・奥野 充 (福岡大) :
長岡さんと議論した「噴火史データベース」とその後の進展
(討論2)

(14:00～16:00 一般講演2)